

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°15 ジェラルール・デスクランブ

生産地方：ボルドー

新着ワイン 2 種類♪

AC ボルドー ルネッサンス 2014 (赤)

2014 年は、ジェラルール曰く、酒質が繊細でやわらかく女性的なワインに仕上がったとのこと！実質のアルコール度数は例年より若干高いが、アルコールのボリュームを感じさせない果実のみずみずしさがあって、とても飲みやすい！それでいて、ブドウの収量が少なかった分、ストラクチャーがしっかりあり、味わいに奥行きがある！

AC ボルドー ルネッサンス樽熟「キュヴェ・ラン・ヌフ」2011 (赤)

2011 年は、デスクランブらしい果実味が滑らかで酸がエレガントなスタイルに仕上がっている！ボルドーの 2011 年は、成熟が早かった割には糖度が上がらないブドウが多かったが、ラン・ヌフは補糖なしで仕込まれており、それでも力強くしっかりとボディがある！一方で、pH は 3.16！と白ワイン並みの低さで、味わいのバランスが良く、スマートに仕上がっている。pH が低いこともあって、SO₂の添加量はいつもの半分の 10 mg/L に抑えている！2009 年や 2010 年のようなボリューム感はないが、フェノールが十分に熟していることで、香りが高く果実の旨味がしっかりとある！

ミレジム情報 当主ジェラルール・デスクランブのコメント

2011 年は、ブドウの成長サイクルが早まった年だ！開花は例年よりも早く終わり、8 月終わりまでは病気や自然災害がほとんどなく全てが順調に推移していた。だが、9 月 1 日、まさに収穫直前にボルドー北部からアントルドメールにかけて雹が襲った！私の畑も広範にわたり親指大の雹に当たり、収量が 35 hL/ha と 40%減にまで落ちてしまった…。幸い、雹の降った後に雨が降らなかったことと、また、2011 年はブドウが早熟で 9 月 1 日の時点ですでにある程度完熟していたこともあり、その後腐敗が蔓延する前にどうにかブドウを取り込むことができた！

2014 年は、ブドウの収量は例年の 50%減と 2012 年、2013 年に次ぐ厳しい年だった。収量の減った主な原因は、天候不良よりもむしろ 2013 年に襲った雹の影響で、相当のダメージを受けているブドウの枝を、冬の剪定で厳格に調整したことにあつた。厳格な剪定の結果、ひとつの木についたブドウの房は 4~8 房程度。ブドウの平均収量は 30 hL/ha と落ち込んだ。天候的には、春のスタートは順調だったが、7 月から気温の上昇が不安定な天気が続いた。さらに、8 月に入ると今度は雨が降り止まず、ミルデューやオイディウムなどの病気が畑に蔓延し始めた。不幸中の幸いか、私の畑はすでにブドウの房が少なかったおかげで風通しが良く、さほど大きな被害には遭わなかったが、冷夏の影響でブドウがほとんど熟さず、このままの天候不良が続くとまったくブドウを収穫できない可能性すらあった。だが、9 月に入り、天候は一転、遅れた夏が戻ってきたような暑さと快晴に恵まれ、そのまま収穫まで夏のような天候が続いたおかげで、ブドウは一気に完熟し、無事収穫までたどり着くことができた！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

今年で 66 歳になったジェラルール。元々左足に抱えていた持病が最近になって悪化し、現在、彼は歩く時も、軽く足を引きずるような不自由さを余儀なくされている。父の様態を心配し、2 年前からドメーヌを手伝っている 27 歳の一人息子オリヴィエが、今年から正式にドメーヌの全てを管理することになった！

今でも覚えているが、ちょうど 4 年前にジェラルールが「私はもう年で、そろそろワイン業界を引退する時期が来ている。理想はうちの一人息子がドメーヌを引き継いでくれることなのだが…」と自らの進退を口にすることがあった。その当時、オリヴィエは消防士で、私も一緒にご飯を食べたことがあるが、その時は父の仕事に関心があるようには思えなかった。だが、不幸中の幸いか、ジェラルールの左足の様態を機に、オリヴィエがドメーヌに戻ってきてくれたのだ。

ジェラルール曰く、オリヴィエは元消防士だけあって、体力と判断能力に長けていて、とにかく真面目に仕事をこなすのだそうだ。「自分自身が少しアーティスト的なズボラな性格なので、息子のような真面目な性格の人間が管理するとちょうど良い！最近、私が床にワインを数滴こぼしただけでも、息子に叱られる様だよ。」と、少し息子自慢も含んだ口調で嬉しそうに話すジェラルール。今後しばらくはジェラルールが当主として現場に出て息子のサポートをしていくが、基本的にはオリヴィエが畑から醸造まで指揮を執ることになる。

最後に、オリヴィエに今後の抱負を聞いてみた。彼ははにかみながら、「まずは、父のやり方をゼロから学びたい。父が長年に渡って実践したビオロジックや環境への配慮は、自分の目指す方向性にも沿っているし、その完成度を高めていきたい」と語ってくれた。長年のビオロジックで培われた素晴らしいコンディションのブドウを手に、真面目で好青年のオリヴィエがどのようなワインに仕上げていくか、とても興味深く楽しみだ！

(2015.8.18.のドメーヌ突撃訪問より)